

防災訓練実施結果報告書

24京大施環化第20号

令和6年5月29日

原子力規制委員会 殿

報告者

住 所 京都府京都市左京区吉田本町36番地1

氏 名 国立大学法人京都大学

学長 湊 長博

防災訓練の実施の結果について、原子力災害対策特別措置法第13条の2第1項の規定に基づき報告します。

原子力事業所の名称及び場所	京都大学複合原子力科学研究所 大阪府泉南郡熊取町朝代西2-1010	
防災訓練実施年月日	令和5年11月7日	令和5年6月5日、 令和5年8月24日、 令和5年11月1日、 令和5年11月2日
防災訓練のために想定した 原子力災害の概要	平日昼間帯に発生した震度6強の地震により、5MWにて運転中であった研究用原子炉の炉心タンク水位が低下し、原子力災害対策特別措置法第15条の原子力緊急事態に至る原子力災害を想定。	別紙2のとおり
防災訓練の項目	総合訓練	要素訓練
防災訓練の内容	(1) 参集点呼訓練 (2) 通報連絡訓練 (3) 情報収集訓練 (4) 緊急時体制の構築訓練 (5) 避難誘導等訓練 (6) 汚染拡大防止等訓練 (7) 医療活動訓練 (8) 消火活動訓練 (9) 緊急時モニタリング訓練 (10) 線量評価訓練 (11) 広報活動訓練 (12) 応急復旧訓練 (13) BDBA 対策訓練 (14) 資機材調達・輸送訓練 (15) 要員派遣、資機材貸与訓練 (16) 外部機関との連絡調整訓練	(1) 通報連絡訓練 (2) 情報収集訓練 (3) 緊急時体制の構築訓練 (4) 避難誘導等訓練 (5) 医療活動訓練 (6) 消火活動訓練 (7) 緊急時モニタリング訓練 (8) 応急復旧訓練 (9) BDBA 対策訓練 (10) 資機材調達・輸送訓練 (11) 汚染拡大防止等訓練
防災訓練の結果の概要	別紙1のとおり	別紙2のとおり
今後の原子力災害対策に向けた 改善点	別紙1のとおり	別紙2のとおり

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

防災訓練の結果の概要(総合訓練)

本防災訓練は、原子力事業者防災業務計画 第2章 第7節1に基づき実施したものである。

1. 防災訓練の目的

原子力防災組織が原子力災害の拡大防止に有効に機能することを確認し、重大事故等が発生した状況下における原子力防災組織の対応能力の向上を目的として、防災訓練を実施した。

本訓練での訓練目的を達成するための具体的な訓練目標は以下のとおり。

- a. 収集、整理した情報をもとに COP シートを作成し、ERC プラント班への情報提供が行えること。
 - ・収集した情報を整理し、必要十分な情報が記載された COP シートを作成できること。
 - ・資料、図面、COP シートを用いて、ERC プラント班への情報提供が適切に行えること。
- b. 複数の発災現場からの情報の提供、収集を適切に行い、対策の検討、指示ができること。
 - ・現場での作業の進捗状況について、緊急対策本部への適切な情報提供ができること。
 - ・緊急対策本部において複数の現場からの情報を整理し、対策の優先順位を判断し、適切な指示ができること。
- c. これまでの訓練で抽出された問題点に対する改善策の有効性が確認でき、問題点が再発しないこと。

2. 実施日時および対象施設

(1)実施日時

2023年11月7日(火) 13:30～16:20

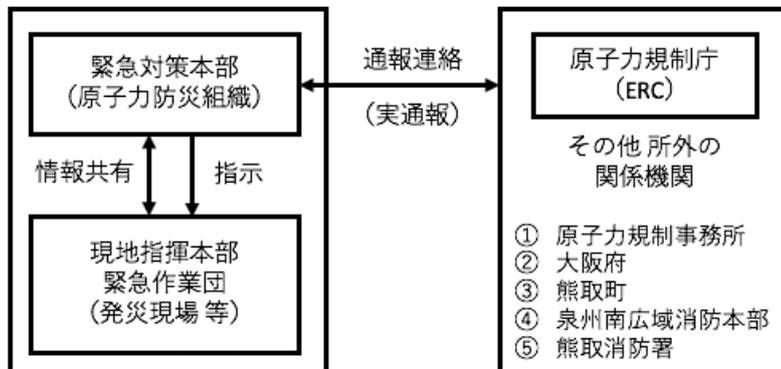
(2)対象施設

京都大学複合原子力科学研究所

- ・緊対本部(緊急時対策所)
- ・京都大学研究用原子炉(KUR)(発災現場)
- ・使用済燃料室(SF)(発災現場)
- ・第1研究棟(火災発生現場)

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1)実施体制



ERCプラント班とは ERC 対応者が電話で常時通話接続状態とし、迅速な情報共有の対応を図る。

(2)評価体制

学内訓練評価者として評価経験者を選任し、学外訓練評価者として原子燃料工業(株)熊取事務所および近畿大学原子力研究所からの見学者によるピアレビューにより、訓練の達成目標を踏まえ予め設定した「達成基準」及びこれまでの訓練からの改善事項に対しての評価を実施し、また訓練終了後に実施した反省会を通じて改善点を抽出した。

評価者:3名(緊急本部2名、発災現場1名)[学内1名、学外2名]

(3)参加人数

参加人数;プレーヤ108名、コントローラ2名

参加率:98%(参加人数111名/訓練対象者総数113名)

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

原子力災害対策特別措置法(以下、原災法)第10条事象および第15条事象に至る原子力災害を想定した。詳細は以下のとおり。

(1)訓練形式

- ・緊急本部の一部のプレーヤを除いてシナリオを非開示として実施した。
- ・訓練途中での時間スキップは行わず実時間にて実施した。

(2)訓練想定

- ・平日昼間帯に発生した震度6強の地震により、5MWにて運転中であったKURの炉心タンク水位が低下し全面緊急事態(GE22)に至り、使用済燃料室の水位が低下し施設敷地緊急事態(SE06)に至る事象の発災を想定した。

(3)事象進展の概要

時刻	事象・活動	EAL	外部通報 FAX
13:30	地震発生(熊取町 震度 6 強) 緊对本部自動設置 放送による情報共有		
	外部電源喪失 EG1 起動成功 所内 DG(1000kVA)起動成功		
	KUR スクラム成功 KUCA 停止中		
13:45	AL 該当事象発生との連絡 緊急作業団の召集 現地指揮本部開設	AL	AL発生連絡 [13:45] (AL: 震度 6 弱以上観測)
13:53	KUR 炉心タンク水位低下警報(-5cm) 炉室1階は漏水なし 漏水箇所不明 高架水槽配管破断		AL経過連絡 [13:53] (地震後点検の結果報告)
13:50	緊急時モニタリング準備		
13:50	SF 漏えい警報発報 SF プール水位低下警報(-20cm) SF の点検開始		
13:52	炉心タンクへの給水の指示 管理区域内の残留者報告 可搬型発電機、可搬型消防ポンプの準備指示		
13:56	突入班の準備の指示 突入時の被ばく線量評価、および体制、資機材の指示 突入班退出時の汚染拡大防止措置を指示 管理区域内残留者の捜索 避難所の人員把握		
14:10	SF の漏えい箇所確認 SF プール給水開始		AL経過連絡 [14:13] (地震後点検の結果報告)
14:13	負傷者の避難誘導 除染準備、汚染調査 応急手当 救急車搬送(ダミー)		
14:21	負傷者の発見 公設消防へ救急要請 車両誘導指示		AL経過連絡 [14:21] (地震により負傷者発生)
14:42	熱交室の調査のため炉室内突入		

	熱交換器漏えい発見の報告		
14:15	地震発生(熊取町 震度 5 強) KURとKUCAの再点検		
	熱交換器室での1次、2次配管からの漏水の報告(内部溢水の発生) 突入班の退避 突入班の被ばく確認、除染		
	SFの漏えい個所増加 SFエリアモニタ(SF1)警報発報 SFで中性子サーベイメータによる測定指示	SE06	10条通報(SF)[14:33] (SE06:臨界発生のおそれ)
	プレス文作成とweb掲載		
14:20	炉心タンク水位低下(-20cm)	AL21	AL発生連絡(KUR)[14:28] (AL21: -20cm以下で低下継続)
	ホットサンプル水位上昇	AL53	AL発生連絡(KUR)[14:42] (AL53: 内部溢水のおそれ)
	SFでの中性子サーベイメータ測定結果の報告(B.G.)		
14:38	炉室地下キュービクル故障 サブパイルルーム漏水汲み上げポンプ2台とも不動作 制御室放送設備使用不可 プール水汲上ポンプによる給水不可 可搬型消防ポンプでの給水開始を指示		
14:50	炉心タンク水位低下(-350cm)	SE21	10条通報(KUR)[14:59] (SE21: -350cm以下で低下継続)
	プレス文作成とweb掲載		
15:00	定時モニタリング結果の報告		
15:05	炉心タンク水位低下(-500cm)	GE21	10条通報(KUR)[15:11] (GE21: -500cm以下で低下継続)
15:07	プレス文作成とweb掲載の指示		
15:12	災害対策支援拠点設営の指示 外部機関への協力依頼		
15:20	SF地下サイトグラス部のバルブを閉止 SFプール水位低下の停止		
15:40	炉心タンク水位上昇		25条報告(対応計画、モニタリング結果報告)[15:31][15:50]
15:45	研究棟(非管理区域)で火災発生 公設消防へ消防要請・車両誘導		
16:00	消火活動(公設消防と協同)		
16:20	訓練終了		

5. 防災訓練の項目

総合訓練

6. 防災訓練の内容

- (1) 参集点呼訓練
- (2) 通報連絡訓練
- (3) 情報収集訓練
- (4) 緊急時体制の構築訓練
- (5) 避難誘導等訓練
- (6) 汚染拡大防止等訓練
- (7) 医療活動訓練
- (8) 消火活動訓練
- (9) 緊急時モニタリング訓練
- (10) 線量評価訓練
- (11) 広報活動訓練
- (12) 応急復旧訓練
- (13) BDBA*対策訓練
- (14) 資機材調達・輸送訓練
- (15) 要員派遣、資機材貸与訓練
- (16) 外部機関との連絡調整訓練

*BDBA(Beyond Design Basis Accident): 設計上定める条件より厳しい条件において発生する事故)

なお、応急復旧訓練は、発災現場での応急復旧対策の準備までを実働として実施した。医療活動訓練は負傷者発生を模擬しての応急処置と救急搬送を実働として実施した。広報活動訓練は、緊急本部での広報文の作成と訓練用非公開ページへの広報文掲載および訓練終了後に模擬記者会見を実働として実施した。資機材調達・輸送訓練における原子力事業所災害対策支援拠点への資機材輸送は、資機材の調達、輸送準備と現地での拠点開設の可否確認を要素訓練において実働として実施した。

7. 防災訓練の結果および評価

「6. 防災訓練の内容」に示す各項目の訓練を実施し、訓練評価者による訓練評価、訓練終了後の反省会等を行い、計画した各訓練に大きな支障がなく、原子力防災組織が有効に機能することを確認した。ただし、いくつかの訓練項目にて改善点が抽出された。

各訓練項目の結果および評価は以下のとおり。

本文中の〈目的[アルファベット]〉は「1. 防災訓練の目的」の目的の各項目を、(改善点[番号])は「9. 今後の原子力災害対策に向けた改善点(対策)」の事項番号を示す。

(1) 参集点呼訓練

[結果] a) 緊急事態の発生後6分で一斉放送等により要員を召集し、14分後に参集人員の報告ができた。

[評価] a) 緊急事態の発生後15分以内に、適切に参集できることを確認した。

(2) 通報連絡訓練 〈目的 [a]〉

[結果] a) 緊対本部内での情報共有、所内外関係機関への情報発信、ERCプラント班との常時通話接続および Webex を用いた資料、図面、COP シートを活用した情報提供を実施した。

b) 警戒事態及び原災法 10 条事象、15 条事象発生時に所外への実通報連絡を、事象発生後15分以内(AL: 15 分、AL21: 8 分、SE06: 6 分、AL53: 7 分、SE21: 7 分、GE21: 6 分)に実施した。

[評価] a) 資料、図面、COP シートの内容が不十分であったため、ERC プラント班への情報提供が断片的となり、根拠に基づき整理された説明ができなかった(改善点[1])。重要情報について、緊対本部全体での情報共有や ERC プラント班への優先的な情報提供ができなかった(改善点[2])。また、EAL の判断根拠について資料を用いた説明ができなかった(改善点[3])。

b) 警戒事態及び原災法 10 条事象、15 条事象発生時に 15 分以内に所外への実通報連絡ができることを確認した。

(3) 情報収集訓練 〈目的 [a]〉

[結果] a) 緊対本部において現場及び現地指揮本部からの情報の収集、整理を行い、COP シートを作成したが、事象の進展予測や複数の戦略の検討は十分にできていなかった。

[評価] a) 収集し整理した情報を COP シートにまとめて ERC プラント班へ情報提供することができなかった(改善点[1])。

(4) 緊急時体制の構築訓練

[結果] a) 緊対本部の召集後 6 分で、参集した要員の役割分担を行い、緊急時体制を構築した。

b) 現場での作業終了時に、緊対本部への人員の状況報告を実施した。

[評価] a) 緊対本部の召集後 15分以内に緊対本部員の参集、役割分担を行い、緊急時体制を構築できることを確認した。

b) 現場での各作業の完了時に作業内容とともに作業員の状況報告ができることを確認した。

(5) 避難誘導訓練 〈目的 [b]〉

[結果] a) 一斉放送による退避誘導後 10 分で、研究所敷地内の避難所の状況把握及び避難の状況把握を開始できたが、状況を整理し緊対本部に情報共有するまでに 26 分を要した。

[評価] a) マニュアルに基づき地震発生時の指示、退避誘導、状況把握は実施できたが、担当作業班から緊対本部への情報共有ができていなかった。

(6) 汚染拡大防止等訓練

[結果] a) 現場作業者の汚染状況を把握し、状況に応じた汚染拡大防止を実施した。

[評価] a) 汚染の可能性のある現場作業者の汚染状況の把握と汚染拡大防止のための活動手順、技量が定着したことを確認した。

(7) 医療活動訓練

[結果] a) 要救助者の発生連絡から9分で汚染拡大防止の準備を完了し、速やかな救出・救護(医療活動)を実施した。

[評価] a) 要救助者の発生連絡後、汚染拡大防止の準備を完了するための手順が定着し、救出・救護のための技量があることを確認した。

(8) 消火活動訓練

[結果] a) 研究所敷地内で発生した火災を想定し、模擬的にグラウンドに向かっての放水による消火活動を実働で実施した。

[評価] a) マニュアルに基づいた火災に対する消火活動を実施する手順と技量が定着したことを確認した。

(9) 緊急時モニタリング訓練

[結果] a) 定時における周辺区域の線量測定及び放射線影響評価、それらの結果の緊対本部への報告を実施した。

[評価] a) マニュアルに基づき定時での周辺区域の線量測定及び放射線影響評価、それらの報告を実施する手順が定着したことを確認した。

(10) 線量評価訓練

[結果] a) 現場(KUR 制御室)で活動する要員の被ばく線量評価を実施し、EAL51 の判断を実施するとともに、一部の要員に対しては退避の指示を行った。

[評価] a) KUR 制御室での要員の被ばく線量評価を行い、EAL51 の判断を的確に行う技量が定着したことを確認した。

(11) 広報活動訓練

[結果] a) 事象発生後20分以内(SE: 10分、GE: 11分)で、緊対本部で広報文を作成し、訓練用の非公開ページへの情報掲載を実施した。

b) 模擬記者会見において、プラントの保守管理を行う者以外の者もプレーヤーとして参加し、必要十分な事項について正確な情報発信を実施した。

[評価] a) 事故発生後に緊対本部で広報文作成、web ページへの情報掲載を行う手順が定着したことを確認した。

b) 模擬記者会見において、必要十分な事項について正確に情報発信する手順が定着したことを確認した。

(12) 応急復旧訓練 <目的 [b]>

[結果] a) 炉心水位低下に対する現場対応として、空気呼吸器を装着した応急復旧対策の実働訓練を行った。準備指示の後、16分で応急復旧対策の準備を実施したが、現地指揮本部および緊対本部への準備完了の報告ができていなかった。

[評価] a) 応急復旧対策の指示後に手順どおりに準備ができる技量が定着したことは確認できたが、作業担当者から現地指揮本部への情報共有ができていなかった。

(13) BDBA 対策訓練

[結果] a) KURと使用済燃料プールで同時に発生した水位低下事象に対して、優先順位を考慮した適切な水源の選択と注水計画の検討などの対応戦略の判断ができた。

[評価] a) 研究所における複数の発災施設からの情報を識別して記録、整理し、優先順位を考慮した対応戦略の判断と指示ができることを確認した。ただし、対応戦略については複数の戦略の検討には至らなかった。

(14) 資機材調達・輸送訓練 <目的 [b]>

[結果] a) 災害対策支援拠点の設営の可否について、指示から14分後に現場確認、判断を行い、結果の報告を実施した。

[評価] a) 災害対策支援拠点の現場確認と設営の可否判断を行う手順が定着したことを確認した。

(15) 要員派遣、資機材貸与訓練

[結果] a) 事象発生後13分で防災要員としての派遣人員の選定を実施した。

[評価] a) 事象発生後において、派遣人員の選定を実施する手順が定着したことを確認した。

(16) 外部機関との連絡調整訓練

[結果] a) 原燃工への支援準備要請連絡を行い、緊対本部内での要請状況の情報共有を実施した。

[評価] a) 他事業所への支援準備要請連絡および緊対本部内での要請状況の情報共有を実施する手順が定着したことを確認した。

8. 前回訓練時の改善点への取組み結果

前回の訓練における改善点への取組み結果は以下のとおり。[なお、改善が完了したものには[完了]と記載している。

No.	前回の訓練において抽出した改善点	取組みの結果 ()内は「9.今後の原子力災害対策に向けた改善点(対策)」を示す。
1	ERC プラント班への説明のための資料・図面が十分ではなく、ERC 対応者の資料を用いた説明が不十分であった。	<p>改善: ERC プラント班が必要としている情報が何かを検討し、必要な情報を提供できるよう追加する資料の選定を行った。また、資料の内容について ERC 対応者への教育を行った。さらに、Webex と書架カメラを用いて ERC プラント班に情報を提供した。</p> <p>結果: Webex と書架カメラの利用により、ERC プラント班へ効率的に情報提供できた。一方で準備した資料に含まれる情報が不十分であったため、ERC 対応者による根拠説明や所内での情報提供ができなかった。また、EAL の判断基準などの説明資料も不足していた。(改善点 [1])[7.(2) 通報連絡訓練, 7.(13) BDBA 対策訓練]</p>
2	事象の進展や対策を COP としてまとめ、ERC プラント班へ情報提供することができなかった。	<p>改善: COP シートの作成を簡便化するため、汎用的なフォーマットの COP シートだけではなく、進捗や対策に応じたフォーマットの COP シートを作成した。COP シート作成を担当する本部員を配置し、ERC 担当者のサポート体制を強化した。改善した COP シート、サポート体制での COP シート作成手順の教育・訓練を行った。</p> <p>結果: 一部の COP シートの内容が不十分であり、収集し整理した情報を COP シートにまとめて ERC プラント班へ情報提供することができていない場面があった。</p> <p>(改善点 [1])[7.(2) 通報連絡訓練, 7.(3) 情報収集訓練, 7.(13) BDBA 対策訓練]</p>
3	ERC 担当者のサポート体制が十分でなく、緊急対策本部からの積極的な情報の収集や、ERC プラント班からの問い合わせに回答漏れが生じた。	<p>改善: ERC サポート担当者の役割を明確にし、増員を行うことで ERC 対応における体制強化を行った。</p> <p>結果: ERC サポート担当者が各自の役割を担当し、ERC 対応の体制強化と練度の向上が確認できた。[完了]</p>
4	発災現場での作業完了時の情報提供が欠落していた。	<p>改善: 現地指揮本部の開設・運営マニュアルの修正を行い、緊急作業団員への教育を行った。</p> <p>結果: 発災現場での作業全体の完了報告はできていたが、指示のあった準備の完了報告が欠落したり、報告までに時間を要した場面があった。</p> <p>[完了]</p>

9. 今後の原子力災害対策に向けた改善点(対策)

今回の総合訓練において抽出した改善点は以下のとおり。

No.	今回の総合訓練において抽出した改善点	
1	改善点	1) 備付資料として、整理された COP シートや EAL の判断基準と判断フローを示した資料がなかったため、ERC プラント班への情報提供が断片的となり、根拠に基づき整理された説明ができなかった。(再発事項) 2) 事象の進展予測はできたが、複層的な戦略検討はできていなかった。(再発事項) 3) 所内での情報共有が不十分であり、現場作業者がプラント状況を把握できていなかった。
	原因	プラントごと、情報の種類ごとの COP シートを準備したが、情報が不十分であったため、ERC 対応者による根拠説明や所内での情報提供ができなかった。 備付資料として、EAL の判断基準などの説明資料が不足していた。
	対策	緊急対策設備、事象の種類に応じて整理され、判断の根拠、複層的な戦略検討などが説明しやすい COP シートへと改善する。 適切なタイミングで COP シートを活用して現状整理や進展予測を行い、優先順位を含めた戦略検討や所内での情報共有が行えるように緊急対策本部員への教育を行う。 EAL 判断時に根拠に基づいた説明ができるよう、判断基準や判断フローを記載した資料を作成し、備付資料として追加する。
2	改善点	重要情報について、緊対本部全体での情報共有や ERC プラント班への優先的な情報提供ができなかった。
	原因	緊対本部で重要情報を入手した際に、EAL 判断や対策の迅速な判断を優先した結果、緊対本部全体での情報共有や ERC 対応者への情報提供が遅れた。
	対策	FAX 通報を要するような重要情報については、緊対本部全体で情報共有を行い、ERC 対応者に対して重要情報として ERC プラント班への優先的な情報提供を指示するよう情報の流れを改善する。
3	改善点	SF での SE06 発生の判断根拠が適切ではなかった。
	原因	通報に遅れが生じないことを重視したため、防災業務計画の EAL 判断基準が保守的に過ぎた。
	対策	EAL の判断基準の見直しを行い、適切な EAL 判断ができるようにする。

10. 総括

今回の訓練においては、原子力災害への対応に加え、負傷者発生を模擬した応急処置と救急搬送や、敷地内の一般建物火災を想定した消火活動を、消防署との連携による実働で行うなど所外の関係機関との協働訓練も実施した。なお、訓練の目標(a～c)の検証結果は以下のとおりであった。

- a. 収集、整理した情報をもとに COP シートを作成し、ERC プラント班への情報提供が行えること
 - ・Webex と書架カメラの利用および ERC 担当者のサポート体制増強により、ERC プラント班への情報提供体制が改善できた。一方、資料、図面、COP シートの改善が不十分であったため、ERC プラント班への情報提供が断片的となり、根拠に基づき整理された説明ができなかったり、EAL の判断根拠について資料を用いた説明ができなかったりした。
 - ・資料、図面、COP シートの内容を、緊急対策設備、事象の種類に応じて整理し、EAL や対策の判断根拠が説明しやすいように改善し、適切なタイミングで現状整理や進展予測を行い、優先順位を含めた戦略検討や所内での情報共有が行えるように緊急対策本部員への教育を行う必要がある。
- b. 複数の発災現場からの情報の提供、収集を適切に行い、対策の検討、指示ができること
 - ・現地指揮本部の開設・運営マニュアルの修正と緊急作業団員への教育により、複数の所内の発災施設からの情報を識別して記録、整理し、優先順位を考慮した対応戦略の判断と指示ができることを確認した。ただし、対応戦略については複数の戦略の検討には至らなかった。
 - ・複層的な戦略について検討できるように COP シートを改善し、緊急対策本部員への教育を行う必要がある。
- c. これまでの訓練で抽出された問題点に対する改善策の有効性が確認でき、問題点が再発しないこと
 - ・前年度の課題についての改善を試みたが再発した課題もあり、一部の改善については有効性が確認できなかった。また、さらなる改善の必要のある課題が抽出されたため、PDCA を回して要素訓練を実施するなどの改善策の検証の機会を増やし改善を図りたい。

これらの検証結果をもとにPDCAを回し、原子力防災業務計画および中期計画の見直しを行うとともに、各種マニュアルの整備、教育および要素訓練により防災体制の継続的な改善を図っていく。

以上

防災訓練の結果の概要(要素訓練)

1. 防災訓練の目的

本訓練は、原子力事業者防災業務計画 第2章 第7節1に基づき実施した要素訓練であり、各事象収束に対する各種手順に対する対応の習熟が目的である。

2. 訓練実績と今後の原子力災害対策に向けた改善点

報告対象期間中に実施した要素訓練(一部の訓練は机上訓練での実施)の結果と改善点は以下のとおり。

訓練項目	訓練内容	対象者	実施日時	参加者数	訓練結果／今後の原子力災害対策に向けた改善点
緊急時体制の構築訓練 情報収集訓練 通報連絡訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・整理・通報訓練 ・ERC プラント班との情報共有訓練 ・緊急時の設備、資機材の使用訓練 	緊对本部員	令和5年 6月5日 8月24日 11月1日 11月2日	19名 3名 3名 22名	結果: <ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集・整理・通報の手順を確認し、適切な情報共有が行えることを確認した。 ・ERC プラント班との常時接続による情報共有が適切に行えることを確認した。 ・移設した緊急対策本部の各設備を用いた情報の収集・整理が行えることを確認した。
通報連絡訓練	・FAX 送信訓練	緊急作業団 (情報連絡班)	令和5年 6月5日	10名	結果: <ul style="list-style-type: none"> ・すべての班員が手順どおりに外部通報が行えることを確認した。
緊急時モニタリング訓練	・個人被ばく線量の管理運用訓練	緊急作業団 (調査班)	令和5年 6月5日	11名	結果: <ul style="list-style-type: none"> ・作業員の突入時に必要な機器の操作と準備作業が適切に行えることを確認した。
BDBA 対策訓練 応急復旧訓練	・空気呼吸器の装着訓練	緊急作業団 (第1工作班、 第2工作班、調 査班)	令和5年 6月5日	30名	結果: <ul style="list-style-type: none"> ・空気呼吸器と全面マスクの装着が適切に行えることを確認した。

資機材調達・ 輸送訓練	・緊急用資機材調達訓練	緊急作業団 (工作資材班)	令和5年 6月5日	7名	結果: ・資機材の調達・輸送が手順どおりに行えることを確認した。
汚染拡大防止 等訓練	・汚染を伴う負傷者の誘導訓練	緊急作業団 (第3工作班)	令和5年 6月5日	9名	結果: ・汚染の可能性のある負傷者を調査班や救護班と連携して誘導できることを確認した。
医療活動訓練	・被ばく疾病者発生時の対応訓練	緊急作業団 (救護班)	令和5年 6月5日	4名	結果: ・被ばく傷病者発生時の応急処置が手順どおりに行えることを確認した。
避難誘導訓練	・避難所への避難誘導訓練	緊急作業団 (警備機動班)	令和5年 6月5日	10名	結果: ・迅速かつ適切に避難誘導等が手順どおりに実施できることを確認した。
消火活動訓練	・迅速かつ適切な消防活動作業に向けた消火活動訓練	緊急作業団 (消火水防班)	令和5年 6月5日	7名	結果: ・屋外消火栓、可搬式ポンプを用いた消火活動が適切にできることを確認した。

以上